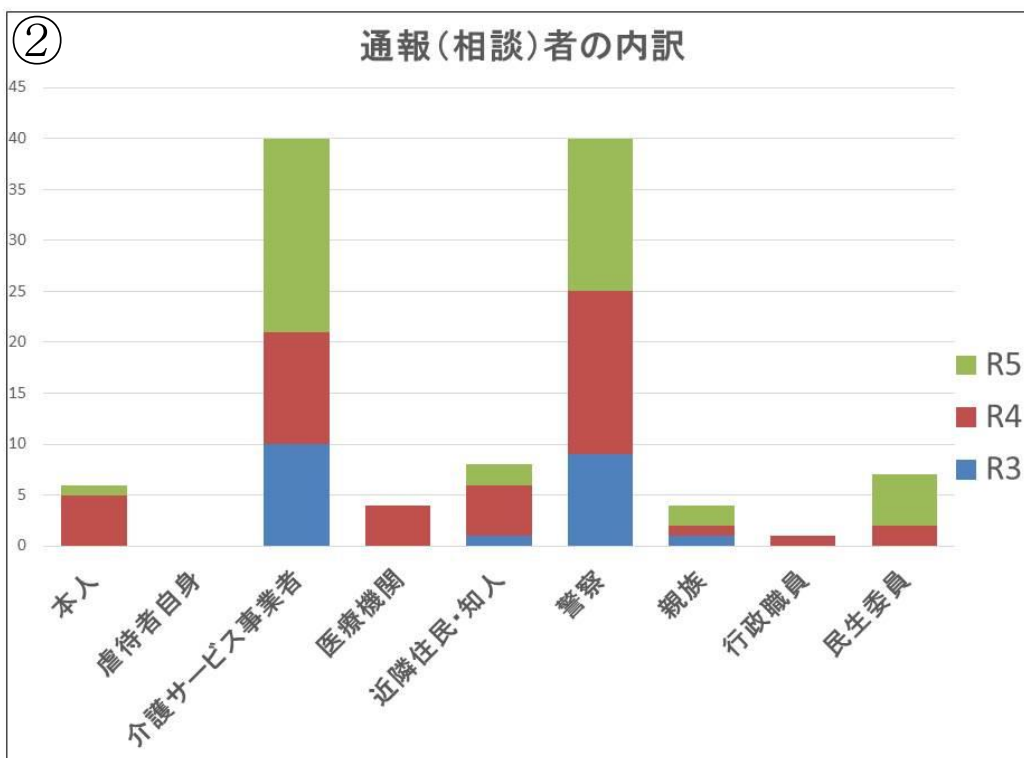
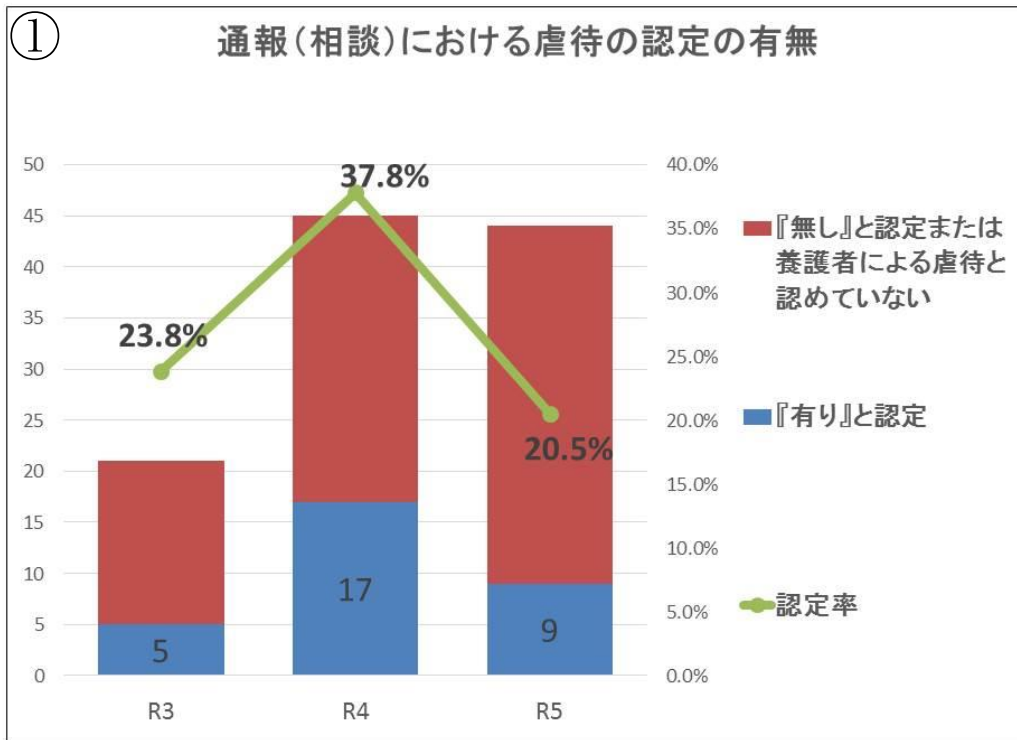


過去 3 ヶ年における  
養護者による高齢者虐待の推移

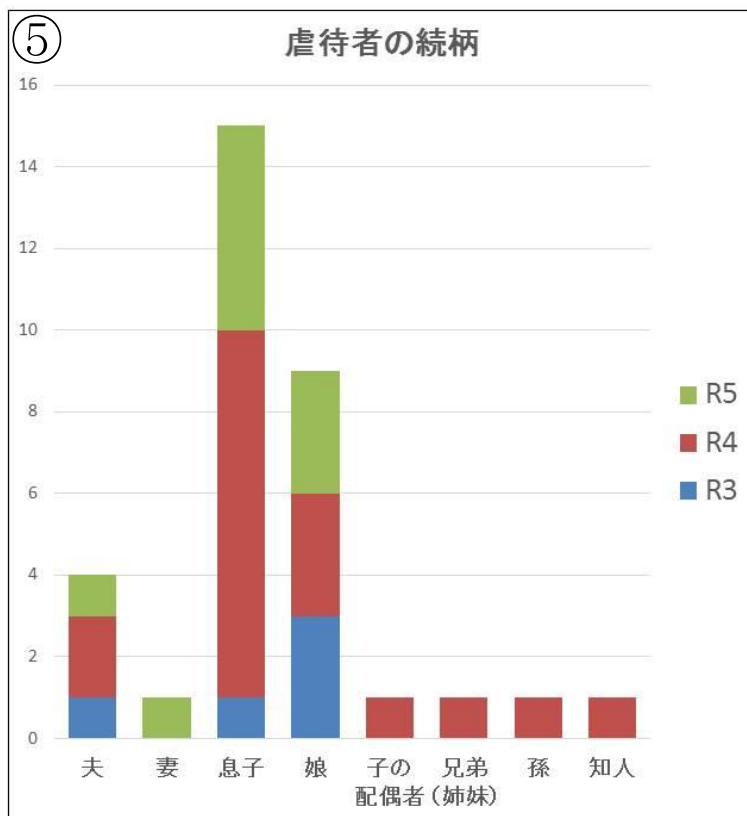
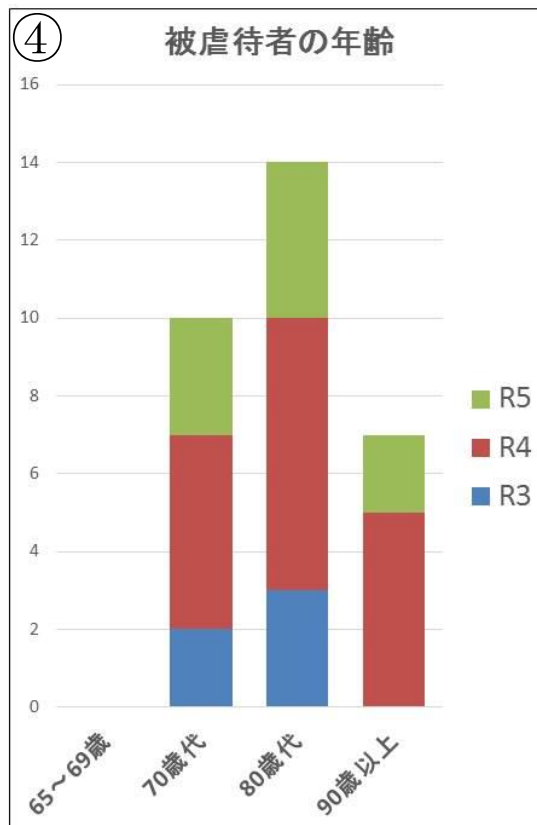
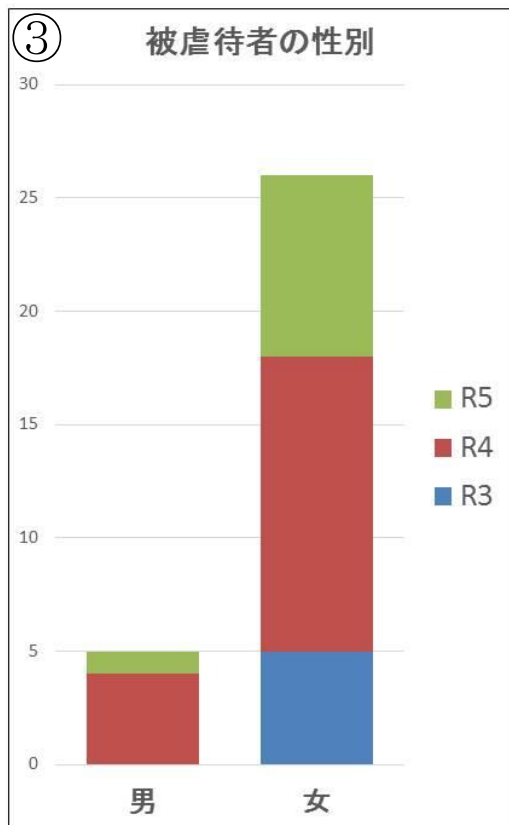


【考察】

養護者による高齢者虐待と認めるような状態（認定率）は減少傾向にある。これは、虐待に至る前に介入ができ、虐待を抑止できている。

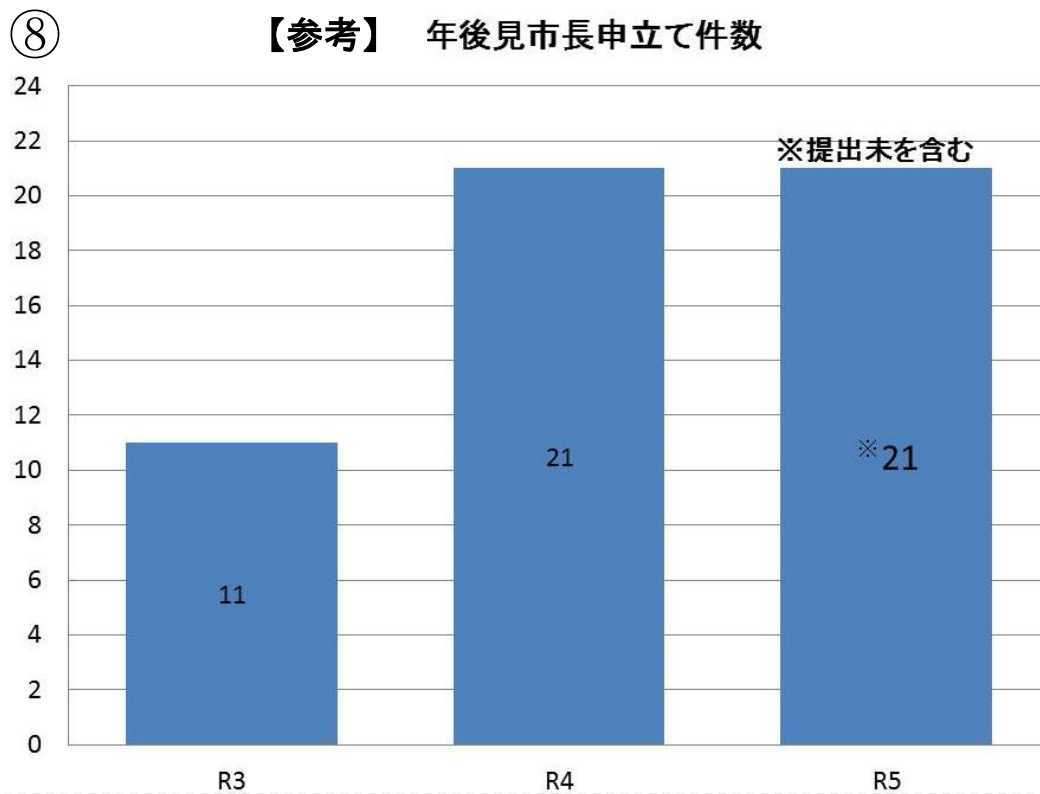
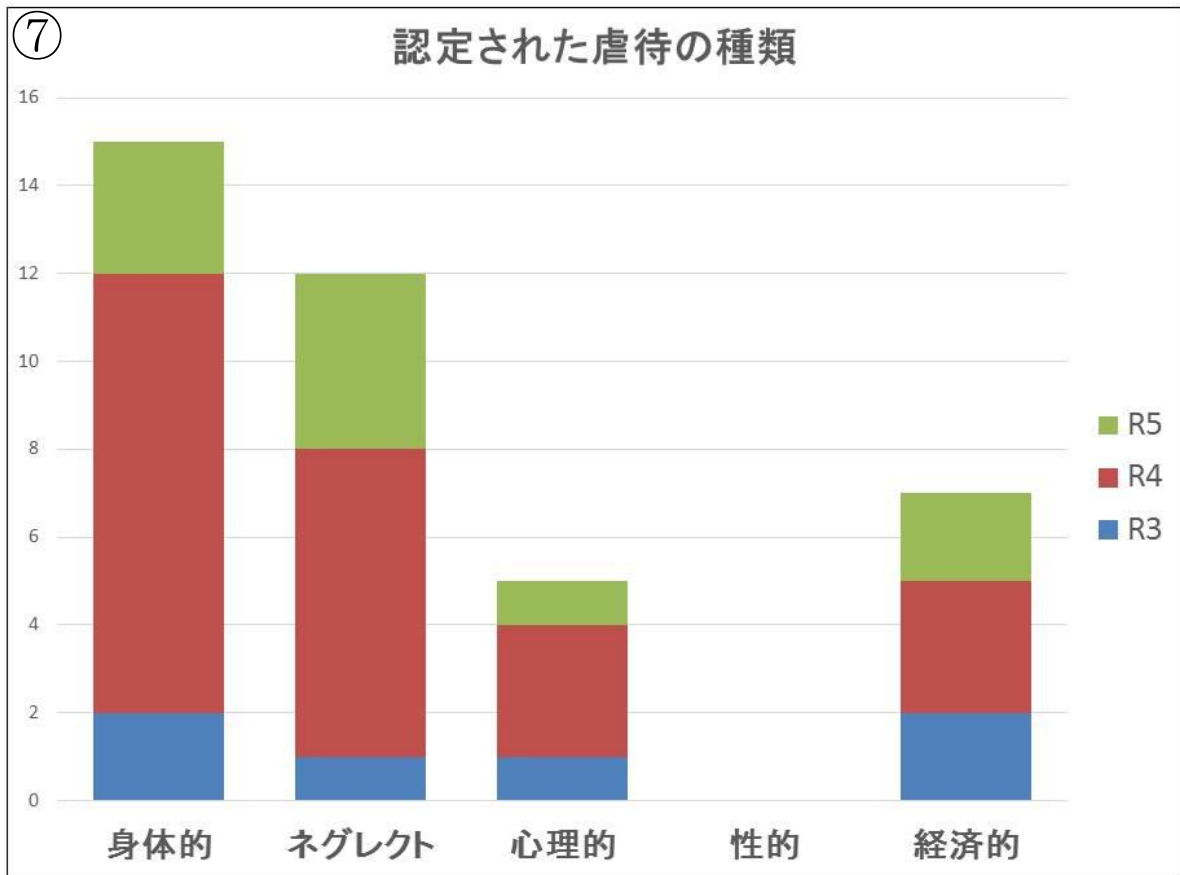
また、通報（相談）件数は増加傾向である。内訳として、R5年度はケアマネジャーを含む介護サービス事業所からの通報（相談）が増加したが、『周南市高齢者虐待対応研修会』にケアマネジャーも参加した効果と判断でき、近隣住民・知人や民生委員など地域からの通報（相談）が増加した理由としても、R5年度から出前トークにおける高齢者虐待に関する普及啓発効果と判断し、高齢者を取り巻く人々が虐待に関する知識を高め、早めの通報（相談）の必要性が認識されているからだと評価できる。

↓以下、虐待『有り』と認定した件数における詳細↓



【考察】

虐待者・被虐待者の属性の傾向は全国と同様であり、周南市でも女性、70歳以上、夫・息子・娘が虐待者である、虐待者と同居世帯の傾向が強い。

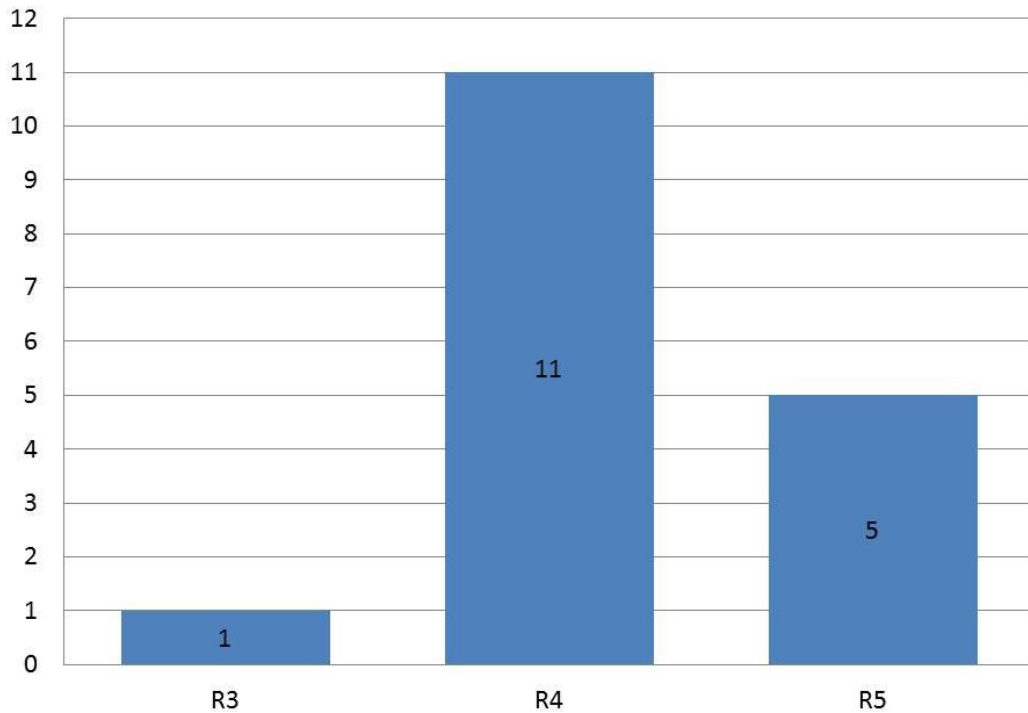


【考察】

R 4年度の傾向と同様に、身体的虐待を認める件数は多いが、ネグレクトや心理的虐待、経済的虐待など、家庭外からは把握しにくい虐待が増加し始めている。また、ネグレクトによる高齢者の身上保護の放棄や、経済的虐待による金銭搾取を認めるケースの増加に伴い、成年後見市長申立て件数も増加している。

⑨

### 【参考】 分離保護



#### 【考察】

前年度と比較し、分離保護が必要になる前に事態を把握し、支援調整の結果、在宅生活の維持に繋がっていると評価する。

## 【課題】

分離保護件数の低下に伴い、在宅支援での虐待対応が長期化傾向にある。要因として、高齢者に対する虐待行為は早急に解消を図ることは出来ているが、養護者支援が長期化してしまう。今後、養護者支援の充実を図ることも必要である。

過去 3 ヶ年における

# 養介護従事者等による高齢者虐待の推移

⑩

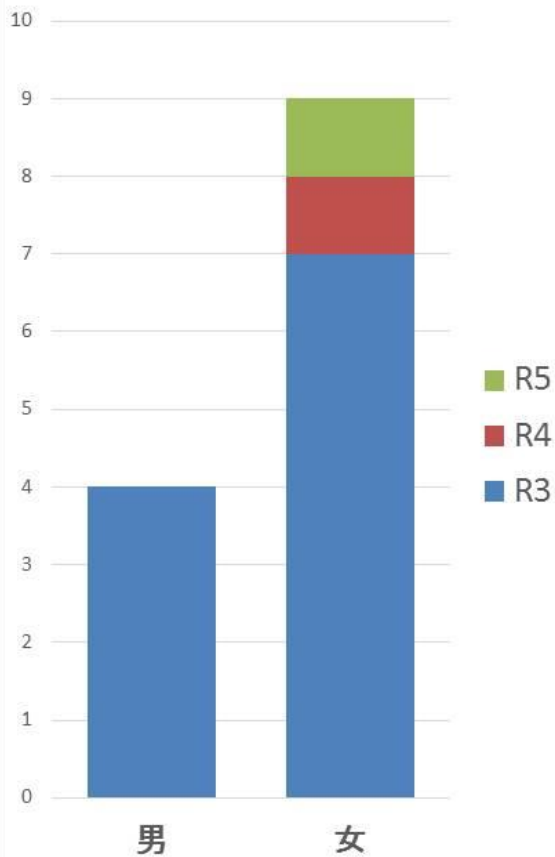
### 通報(相談)における虐待の認定の有無

※要介護施設数



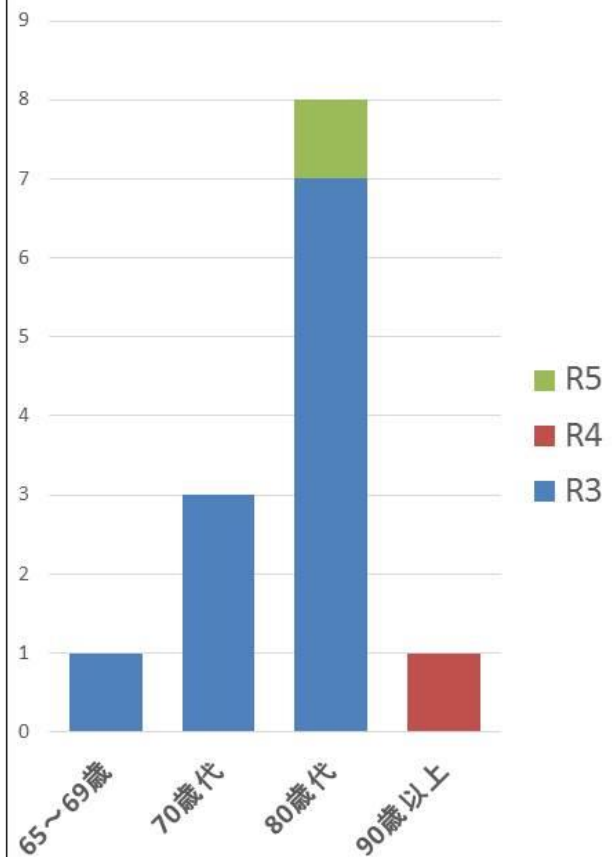
⑪

### 被虐待者の性別



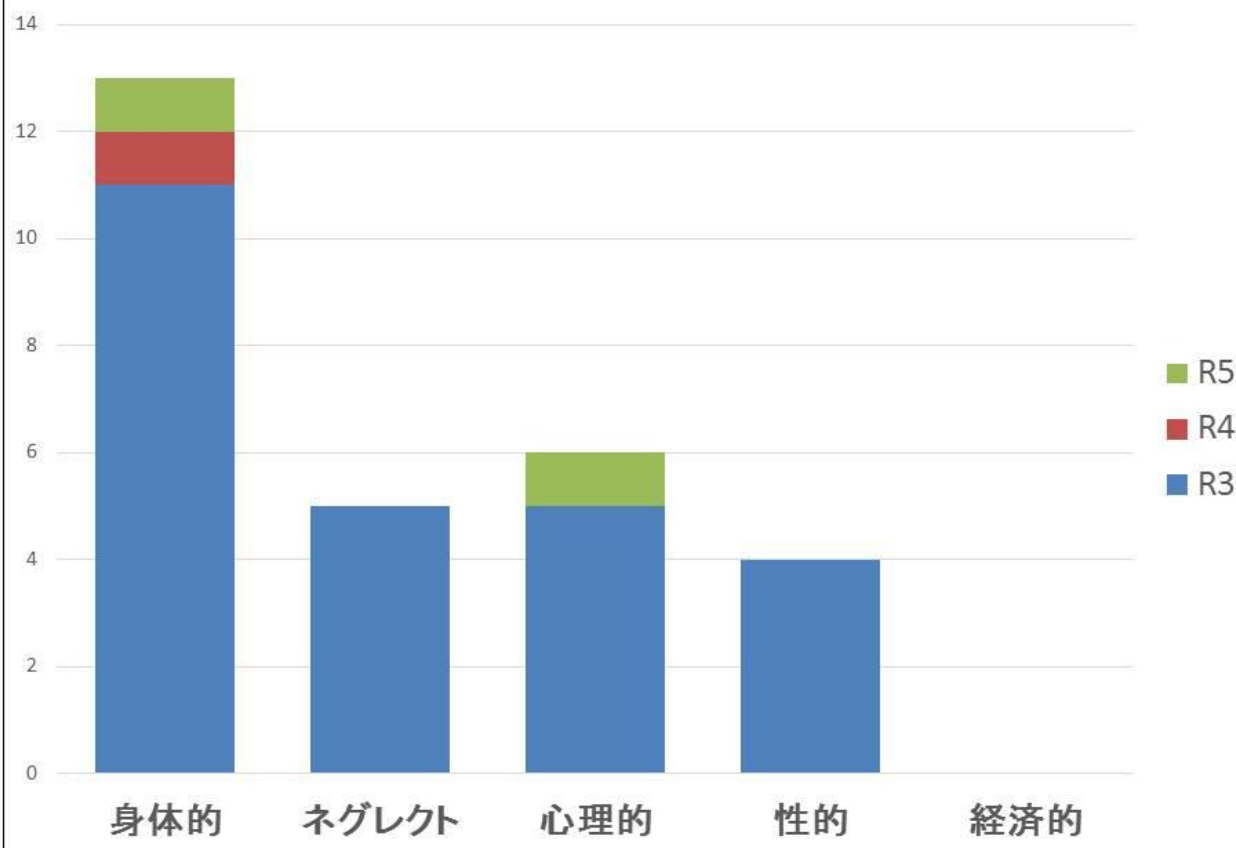
⑫

### 被虐待者の年齢



⑬

認定された虐待の種類



## 【課題】

養介護施設においても、毎年高齢者虐待を疑う通報（相談）があり、主に身体的虐待を認めるケースであった。今後、施設内でも高齢者への介護手技を丁寧にする等、虐待行為に至らないように、R6年度の高齢者虐待対応研修会は、全ジャンルの介護サービス事業所へ参加勧奨する予定である。